

認定心理士の会から

認定心理士の社会的地位向上を目指して

「認定心理士資格は特になんの役にもたたない」とよく聞きます。アンケートでも認定心理士資格を得たことのメリットは「特になかった(40.3%)」が多数でした(認定心理士報告書, 2015)。認定心理士の社会的地位や価値を高めていくのは日本心理学会の責務ではありますが、一方でライセンスホルダーの方々の活躍によるところも大きいと考えております。ここ最近のITの発達により個人が連携をとり、新しいコミュニティや研究のプロジェクトを立てることも可能となってきました。

認定心理士の会を運営する運営委員会は、皆様に認定心理士としてのさらなる社会への貢献とアカデミアへの参加を期待して、今年度2019年は、より積極的なアプローチで認定心理士の社会的地位の向上のサポートをしていきたいと企画・準備しております。認定心理士のホームページで最新のスケジュールをご確認ください

い。会場まで足を運ばない方にはインターネットを使ったオンラインでご参加ができるイベントもございます。「Net de 交流! 認定心理士」では国内はもとより、海外にお住まいの方とも知り合えることができます。また、オンライン上のコミュニケーションの場として、フェイスブックに認定心理士の方限定のコミュニティグループもご用意しました。<https://www.facebook.com/groups/1218354891640905>



是非ともこれらのイベント、システムを大いにご活用ください。認定心理士の会の主役は皆様です。運営委員会からの皆様へのサポートも含めて、一緒に考えてまいりましょう。皆様のご意見をお待ちしております。

(認定心理士の会運営委員会委員 池田琴世)

若手の会から

これからの若手のために 若手の会ができることは何か?

日本心理学会第82回大会が終了して早数ヶ月ですが、日本心理学会によって大会についてのご意見・ご感想をお伺いするアンケートが実施されました。若手の会の企画についても、ご参加の多くの方からご意見をいただき、ありがとうございました。

若手の会の企画として、研究費の獲得、留学、就職というテーマで現在活躍中の若手から経験を語ってもらうという趣旨のシンポジウムを行いました。この企画については、現役の学生と思われる方々から、今後の進路に活かせようというポジティブなご意見をお寄せいただきました。その一方で、「『成功』した人の方略そのものは多くの学生が既に知っているのではないか」というご意見をいただき、企画者側として非常に考えさせられるものがありました。

こういったご意見をうけて、まず、若手が現在進行系で直面している悩み、課題を適切に拾い上げることが若手の会の活動の中では重要になると感じました。先輩のキャリアの話聞くことで参考になることは多く存在しますが、キャリアが進んでいくとより若いキャリアの段階にある人がどういったことに悩んでいるか認識しづらくなる、ということも若手の会を運営する立場としては自覚する必要があると思います。そして、いま現在「成功」とされるようなキャリア形成のあり方のみを強調せず、多様なあり方を広く共有することの必要性も同時に感じました。

自らもキャリア形成の途上にある若手の立場で、手探りの活動が続きますが、これからの若手のために何ができるかを日々考えながら会を運営したいと思います。

(若手の会代表幹事 前田駿太・三浦佳代子)